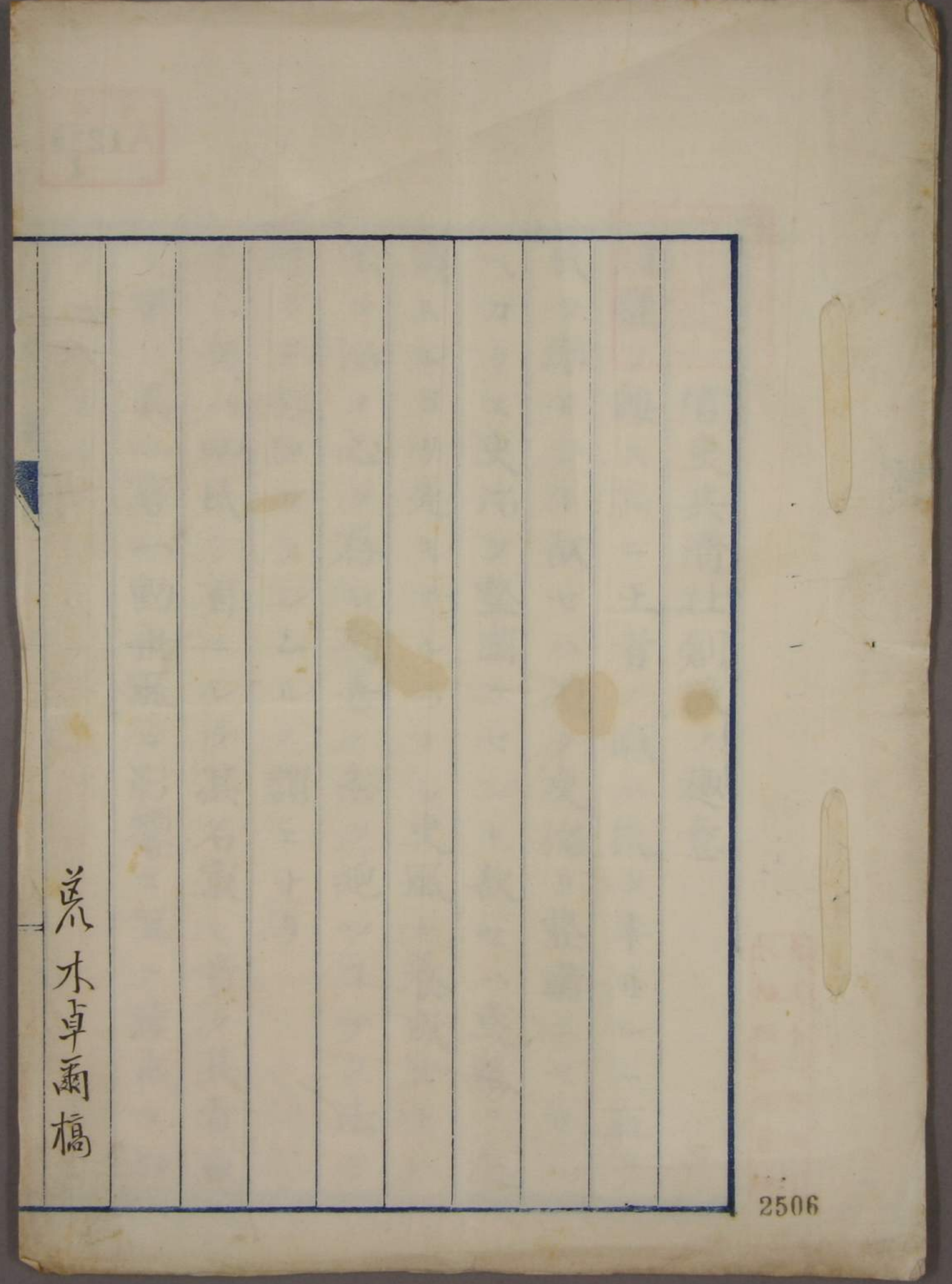


美木卓爾稿



2506



114
A1253
1



官吏共濟社創設ノ趣意

按スルニ王者ノ政ハ民ヲ率井ルニ在リ

民ヲ率井ント欲セハ須ク吏治ヲ整肅ニセサル
ヘカラス吏治ヲ整肅ニセント欲セハ吏風ヲ養
成スルヨリ先キナルハナシ吏風ヲ養成ストハ
生ヲ治メ心ヲ存シ為善ノ志ヲ絶ツイナク法ヲ
守リテ移ラサラシムルノ謂ヒナリ
夫レ吏ハ四民ノ首ニシテ其名最モ貴ク其責最
モ重シ其一言一動世風ニ影響ス宜ク謹戒ヲ加
フヘキナリ

大正十一年四月
陳儀爵郵寄贈

今ヤ我國治法アリ治人アリ有司一人上ニ總理
シ衆人下ニ輔翼ス其相賢ヲ舉クレハ執德ノ人
タリ其吏能ヲ舉クレハ執藝ノ人タリ其將材ヲ
舉クレハ韜鈴ノ士タリ其兵鍊ヲ舉クレハ貔貅
ノ丈夫タリ其博學鴻詞ヲ求ル如キハ則チ千百ノ
有司中豈碩儒ノ士ナカランヤ其温良博雅ヲ求
ル如キハ則チ千百ノ有司中豈君子ノ人寡シト
セムヤ人オ濟々トシテ輩出スル哉ノ如シ眞ニ
隆盛ノ時ト謂フヘシ然而其吏行ニ至リテハ則
チ或ハ懐ニ懐然タラサルモノアリ

今夫一國ノ有司ニシテ庶能ノ性ニ乏シク經濟
ノ才ニ疎ク仁義ノ心ニ薄ク道德ノ行ニ篤カラ
サル時ハ政令規律以テ人ヲ繩スモ將惡ソ吏治
ノ整肅官方ノ澄清ヲ期スルヲ得ンヤ
之ヲ聞ク本邦有司中債ヲ負フモノ多ク其甚シ
キニ至リテハ毎月債主ニ支拂フヘキ利子得ル
所ノ俸給ヲ尽スモ尚ホ其額ニ充ツルニ足ラズ
故ヲ以テ其志ヲ二三ニシ竊ニ民業ニ移ルノ地
歩ヲ求ムルニ非サレハ徒ニ梯榮ノ路ヲ冀ヒ轉
圜ニ巧ナル殆ント人ヲシテ法律ノ外ニ在ルヲ

疑ハシムルモノアリ

汝等ノ如キノ有司ハ常ニ衙ニ出ツレハ公務ヲ
處シ家ニ歸レハ負債ニ奔走ス一心西用何ソ事
務ノ舉ラサルヲ恠マンヤ況ヤ百官ハ藝ナリ苟
モ専心思ヲ致スニ非サレハ其業ニ精ナル能ハ
サルヲヤ

嘗テ聞ク某顯官アリ死亡ス其家赤貧ニシテ埋
葬ノ費ヲ給スル能ハス某士アリ知己ノ故ヲ以
テ私金ヲ擲テ漸ニシテ其費用ヲ辦セシメタリ
ト云ヘリ是蓋顯官平素儉徳ヲ尚ハス家ニ一錢

ノ貯蓄ナキ不覺悟ナルヲ知ルニ足ル豈耻ツヘ
キノ至ナラスヤ

又曩キニ我朝廷佛國ニ依頼シテ製造セシメタ
ル兵艦ニ乗組ミ沈没シタル士官若クハ水丁ノ
遺族へ某者ヨリ若干ノ金圓ヲ寄贈セムト欲シ
又シ募集セントスルニ滿者一人其募ニ應スル
モノナカリシト聞ケリ何ソ夫レ仁人ノ寡ナキ
ヤ

凡ソ汝等ノ類ハ一々救擧スルニ勝エサルナリ
獨逸國官吏經濟存活ノ基礎ハ在官中ニ得ルヲ

以テ常トス宜ナル哉彼國有司率ネ學優品端上
ニ成徳ノ士多ク下ニ通達ノ才乏シカラス他ノ
諸外國ニ冠タル所以ナリ是蓋其國風ニ有司シ
待ツノ制存スルニ因ルト雖氏抑亦其運用ノ本
タル吏風養成ノ法備具スルニ基カスンハアラ
ス且夫人世意ノ如クナラサルハ恒ニ十ノ六七
ニ居ル蓋不幸災變ハ時トシテ其免レサル所ニ
シテ世其害ニ耐ヘサルモノアリ竟ニ民生政治
ノ論ニ歸ス故ニ今之カ豫防ノ策ニ於テ貯蓄及
保險ノ法ヲ講スルハ歐民一般ノ通情ニシテ而

シテ政府ハ美舉ヲ保護獎勵シ以テ實惠濟民ノ
一義務ヲ全フスルニ汲々急タルノミ然ラハ
則今我國ニ於テ治生ノ策ヲ議シテ衣食ノ源ヲ
裕ニシ存心ノ法ヲ立テ吏習ノ本ヲ養フハ取モ
當サニ務ムヘキノ急ナリトス而シテ其事一人
一時ノ能クスヘキノ非ス必スヤ永久衆心ヲ同
フシ衆カシ共ニシ交互相聯結シ定章ニ因リ各
自其推シ行フヘク又其義ヲ守ラシムヘキモノ
アルヲ須テ始テ能ク成就スルヲ得ヘシ是官吏
共濟社創設ノ止ムヘカラサル所以ニシテ其本

邦方今ノ經濟ニ顧ミ又教化ニ鑒ミ默々ニ付ス
ル能ハサル所以ナリ

惟我國其法創始ニ屬ス然レモ其端緒ナキニ非
ス試ニ思ヘ今ヲ去ル數年前ヨリ今ニ至リ官省
廳府縣ノ官吏俸給貯蓄ノ設ケアリ又賦役ノ法
アリ而シテ其法未ダ備ハラヌ且各省各廳屢々
ニ涉ル故ニ今之ヲ改テ畫一ニ歸セシメ且其及
ハサル所ヲ補フテ更ニ完全ナルニ至ラシメ各
省各廳ヲシテ脈絡相貫通セシメントス然ラハ
則チ其法創始ニ屬スト謂フト雖モ實ハ之ヲ釐

正補充スルニアリ

其法果シテ行ハル、モハ官吏ヲシテ益々節約
ノ心ヲ長シ益々著實ノ風ヲ助ケ益々親交ノ性
ヲ深フシ益々測隱ノ心ヲ擴メ益々羞惡ノ心ヲ
壯ニシ益々弘毅ノ志ヲ堅フセシムルノ裨益ト
ナルヘシ又新報ヲ發行スルニ因リ有司經濟致
治ノ理ニ通シ然ル後胸中確トシテ把握アリ政
ニ臨ンテ適從スル所アリ之ヲ百工ニ譬フルニ
木エナリ石エナリ示スニ規矩ヲ以テスレハ運
斤操斧悉ク準繩ニ中ラサルハナシ

噫乎汝一舉ハ寔ニ官吏ノ衆善ヲ勸奨シ諸徳ヲ
振作シ互ニ相切磋磨励シテ以テ福樂ヲ得セシ
ムルノミナラス人民亦其晚胎運化ノ間潛遷默
移ノ中自ラ轉向スル所ヲ知リ民俗厚キニ歸セ
シノミ
斯ニ於テヤ皇上實政ヲ以テ國ヲ治メ仁心ヲ以
テ民ニ接シ給フノ懿慮ニ愜ヒ人民益々有司ヲ
信シテ其心ヲ安シ有司モ亦由テ其職ニ安スル
ヲ得ルニ至ルヘシ
斯ノ如クニシテ王者始テ斯民ヲ陶冶スルノ責

ニ答フルヲ得ヘシ依テ今爰ニ別冊獨逸現行官
吏共濟社規約梗概譯稿並該社實況ノ報告ヲ添
ヘ當路者ノ参考ニ供ス若シ採擇ヲ蒙ラハ千萬
幸甚ノ至リニ堪ヘス某頓首再拜

美木卓爾稿